

山形エコタウン前明石 高性能エコハウス集まる住宅街

荒正、東北芸術工科大、スノーピーク

同タウンは通常の住宅と異なり、住宅の連携に備え、住宅と道路を通して住宅地全体が一体的にデザインされている。連棟住宅は高性能エコハウスとしてトリプルガラス樹脂サッシ、エコキュート、エアコン2台、専用換気システム、大浴光発電システム(PA)を標準装備。北海道で開発されたコアレス工法が採用されており、建物を高気密・高断熱に仕立て、小屋裏に取り付けたエアコン1台で懸



内から下まで一定の東北芸術工科大学が宅地帯の空気を循環させ、一年中快適な室温を保つ。また、主要構造材に地域材の金山杉材を採用し、積極的に地域の木材を利用している。遮熱遮暑事業として、高性能エコハウスの建築。同タウンは、荒正が高性能エコハウスの建築。同タウンは、荒正が高性能エコハウスの建築。同タウンは、荒正が高性能エコハウスの建築。

BELS認定取得 全棟標準仕様目指す

省エネの先を考える ヤマト住建



標準仕様にするため、全棟でBELS認定取得を目指す。省エネの先を考える。ヤマト住建。

同部(東京都、河瀬博英社長)が開発した「ビタットベース フロントティア」を採用した木造の連棟住宅が、東京都内で建設中だ。間口4.4mの敷地に3.5m×3.5mの開口を設けるため、ビタットベース フロントティアと引き戸を組み合わせた同型フレームを構造計算で使用した。構造設計を担当した倉持実倉持設計工務代表は「ビタットベース フロントティアの回転剛性を上部の柱・梁接合部の引き戸を計算して使用した」と話している。



この住宅は木造のため耐火要件が掛かるとして、床面積187㎡、これに昨年施行された平方メートルの規模でガレージを併設した。耐火性能が桁行方向に17層続く、防火地域で、開口部をできるだけ100平方メートルを超える「大きく取り、耐震等級

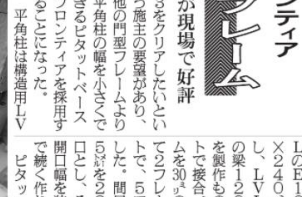


同タウンは、風景やランドスケープデザインをデザインする。同タウンは、風景やランドスケープデザインをデザインする。

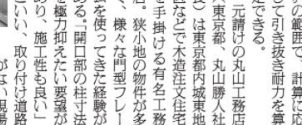
岡部開発のビタットベースフロントティア

施工性の良さが現場で好評

るをクリアしたいという施工性の良さが現場で好評。この住宅は木造のため耐火要件が掛かるとして、床面積187㎡、これに昨年施行された平方メートルの規模でガレージを併設した。耐火性能が桁行方向に17層続く、防火地域で、開口部をできるだけ100平方メートルを超える「大きく取り、耐震等級



LのE160、120×240の材を使用し、LVL・E140の梁120×450を製作したもの引き戸と接合。このフレームは850の開口を狭めて開口ま



UR常盤平印地部門の認証を。住友友林業(重光光吉代表)は、立行政法人都市機構(UR都市機構)の認定を受けた。URの常盤平印地部門の認証を。住友友林業(重光光吉代表)は、立行政法人都市機構(UR都市機構)の認定を受けた。